

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第5回議事メモ

分科会	第 1 分科会（環境保全）
コーディネーター	永由 裕大
ナビゲーター	なし
説明担当者（自治体）	なし
日時	2021 年 10 月 30 日（土） 13 時 30 分から 16 時
場所	開田自治会館
その他	参加者数 <u>10 名</u> 欠席者数 <u>17 名</u>

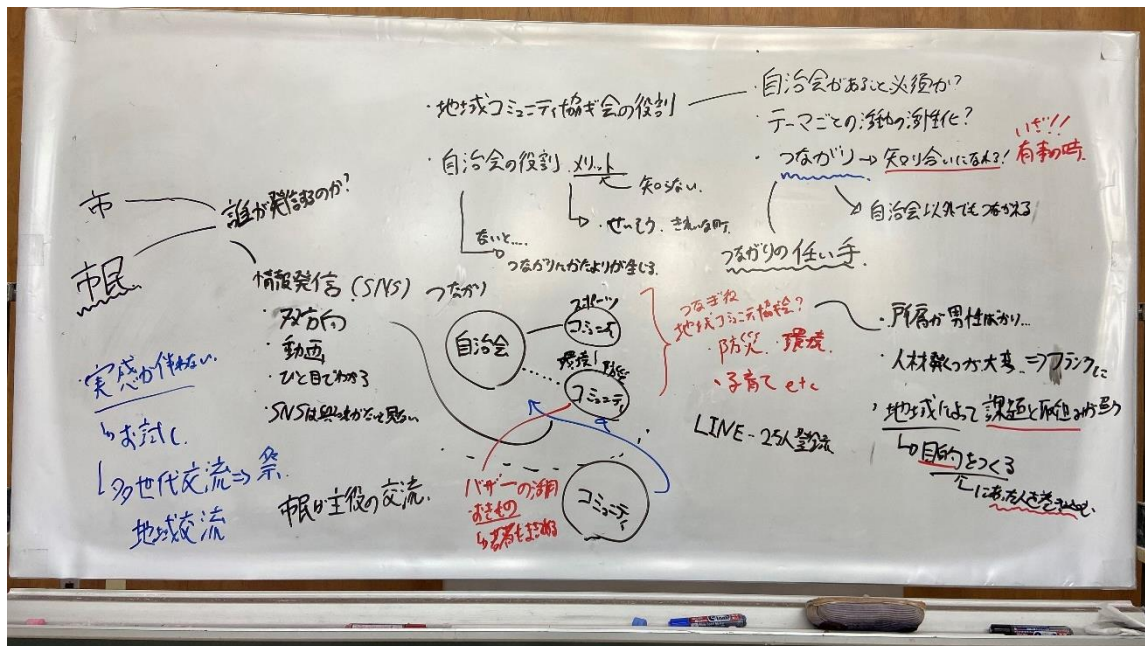
趣旨・概要

- 提案書(案)をもとに議論

主な論点

- 論点② 自分ごと化会議 前半戦を終えて

ホワイトボードの写真



委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

協議の流れ

- コ) 提案書の構成、今後のスケジュールについて説明。
- 委) 提案書の地域コミュニティ協議会の役割が明確に書かれていない。自治会に入らない人が増えているが、災害時の助け合いにおいて地域の自治会の役割が重要である。自治会は各家庭の事情を把握している。
- コ) それらを含めた協議を今からしていきたい。自治会に参加してもらうにはどうしたらいいのか、自治会のあり方についても議論していきたい。

第 I 章 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

- コ) 提案書 5 ページの課題 1 【共助システムの弱体化と負担増・地域活動の多様化】について、ご意見はあるか。
- 委) 自治会のない地域に住んでいる。自治会がどういった役割を担っているのか知らない人が多い。自治会がある地域とない地域で、地域との繋がりや近所との関わり方も違うと思う。災害時には声の掛け合いや情報の伝達が必要になる。自治会がないことの不便さを感じていないが、自治会のメリットを知らないだけかもしれない。
- 委) 6 年ほど前から自治会の活動に関わるようになった。それまではあまり知り合いがいないので、年に 2 回ほどの公園の清掃活動がともしんどかった。自治会に関わることで新たな知り合いとの繋がりができ、新たな活動のきっかけになった。地域コミュニティ協議会について、市の防災計画に地域コミュニティ協議会は一切出てこない。地域コミュニティ協議会の役割について、以前市民の皆さんと街歩きをしてマップにおさめるという活動をしたことがあるが、新たな発見がある。そういった活動をやろうと思うと、地域コミュニティ協議会が核となる。そういった役割を果たしていけないといけないと思っている。
- コ) 地域コミュニティ協議会の設立の背景は、自治会や総合型地域スポーツクラブなど地域の各団体の繋がりや情報共有、課題解決のためだと認識している。先ほど自治会の役割についてお話があったが、自治会の加入なしに、地域コミュニティ協議会を機能させることは可能なのか。
- 委) 自治会に入りたくないという方の声を聞くと、運動会や少年補導などに人員を出さないといけないというのがある。ただ、地域の中での交流や楽しむことを手伝いたいという方はたくさんいる。自治会という形に拘る必要はないのではないかな。自治会という形をつくるのではなく、地域の繋がりを作る必要がある。
- 委) 2 年間自治会長をして、200 人ほどの顔を覚えた。いざというときに助け合うには、知り合いになっておかないといけない。先日長法寺小学校で防災学習があった。その働きかけは地域コミュニティ協議会。私のところの自治会は神社もお寺もないので夏祭

りや地蔵盆ができない。地域コミュニティ協議会のお祭りが唯一のお祭り。地域コミュニティ協議会と自治会をうまく使っていくことが大切だと思う。

- 委) 子どものころは京都市民で、自治会があり地蔵盆もあった。今はそういったものがないので不思議には思っている。繋がりがないことは感じている。子どもがいる世帯は子ども同士が繋がって関わるのかもしれないが、子どもからお年寄りまでが繋がっているかという、そうではない。自治会のない地域では、それぞれの世代同士の繋がりに偏ってしまい、世代間を超えた子どもとお年寄りのつながりがなく、自治会がないからできていないのかどうかも、正直分からない。個人的には自治会があった方が、繋がりができて色んなことができるのではないかと感じている。
- コ) 自治会があることで地域との繋がりがやメリットを感じたことはあるか。
- 委) 家は自治会に加入している。回覧版が回ってくることぐらいしか、自治会に入っているという実感がない。小学生の時は側溝の掃除をみんなでやっていたが、それもなくなった。地域の最年少が高校2年生。自治会の繋がりがなくても、近所の人と繋がりはある。隣の家がステンドグラスの教室をされていて、近所の情報交換の場になっている。
- コ) 自治会ではない場でも交流があるという話があった。繋がりがあるということは繋げる人がいる。地域の繋がりをつくる担い手は誰なのか？
- 委) 自治会の加入率が9割ほどの地域に住んでいるが、活動の参加率が低く、担い手も少ない。体育振興会の役員から一年で会長になった。手伝うけれど、会長が回ってくるのであれば辞めるという人も。運動会がなくなっても不満は出ないし、参加するメンバーもだいたい決まっている。加入率を上げて担い手の問題が解決しないのが悩み。
- 委) 自治会に入っていない。同じマンションに住んでいる人との交流すらない。自治会に入りたいと思っているが、加入する方法が分からない。有事の際に備えて、近隣の人と知り合いになる必要性は感じている。
- コ) 勤務先と自治会に繋がりはあるか？
- 委) 京都市内で勤務していることから、長岡京市内の自治会は接点がない。長岡京市内の地域コミュニティ協議会のこともよく分かっていない。
- 市) 小学校区を単位とする地域コミュニティ協議会が市内10小学校区のうち、8小学校区で設立されている。未設立校区は神足小学校区と長岡第六小学校区。
- 委) コミュニティニュースが全戸配布されているはず。
- コ) 活動が伝わっていない、動機づけがないという状況かと思う。自治会だけが繋がりを担っていくのは厳しいが、それ以外のコミュニティでの繋がりもある。そういったコミュニティ同士を繋いでいくにはどうしたらいいのか。
- PT) コミュニティ同士を繋ぐのが、地域コミュニティ協議会の役割かもしれない。地域コミュニティ協議会は青推協やPTAや自治会が参加している。そういった団体が協働して校区祭りなどを行っている。地域コミュニティ協議会が交流の場になっている。地域コミュニティ協議会設立の際に、自治会がすでにあるのになぜ地域コミュニティ協議

会を作るのかという議論があった。どちらも地縁団体。校区単位の規模での活動は地域コミュニティ協議会がされる。校区単位で小学校が会場となる防災訓練は地域コミュニティ協議会しかできないが、避難活動は自治会単位で声を掛け合って避難されている。そういった棲み分けを意識することは必要だと思う。提案書に書かれていることを発揮するためには、地域コミュニティ協議会・自治会の役割、目的、長期ビジョンなど、何のためにやっているのかを共有したうえで、個人でここまでは協力できる、という話になるのではないかな。

- 委) 自治会の入会率が半分を切った。自治会や老人クラブ、子ども会など既存の組織と連携を取らないと、民生委員の活動ができない。今の自治会を元に戻すのは不可能だと思っている。提案書の7ページに「昔は共同体そのものが生産の場であったので、共同体のルールを守らなければ生きていけなかった。今は生産の場ではなく生活の場。共同体の範囲や在り方も変わってきているのではないかな。」とあるが、まさにその通りだと思う。現状ににあった組織体を再構築すべきではないかな。
- 委) 長法寺地区は空き家が増えている。若者は都会で仕事をして帰ってこない。空洞化している。地域コミュニティ協議会は災害時において大事。地域コミュニティ協議会は自治会に加入していない住民の受け皿になっている。
- コ) 自治会の加入率が低下しており、そもそも住民が減っている地域もある。有事の際は住民同士の繋がりが重要となる。自治会という形で盛り上げていくのか、違った形でのコミュニティを形成していくのか。消防団との連携なども考えた方がいいのかもしれない。
- 委) 消防団の分団員を地域から出すのも難しい状況。
- コ) 消防団の範囲や連携については、どこの自治体も課題になっている。

～休憩～

第三章 市民等と行政の連携をより進めるために

- コ) 仕事の間が長岡京市外の住民に対して、地域にどう関わってもらうか。どのような情報発信をしている？
- PT) 市の魅力を、市民だけでなく、市外に住んでいる長岡京市にゆかりのある人や長岡京市で働いている人に対して、SNSなどのオンラインも活用して情報発信をしている。
- コ) 繋がりの外側の人とどのくらい情報が届いているのか。
- PT) 広報紙は自治会の加入・未加入に関わらず全戸配布している。読んでいただいている反響は感じる。長岡京市の公式LINEの登録者数は2万人ほどいる。どういった人が登録しているのか分析できる。市外の方もかなり登録されている。市のグルメ・観光などの情報をSENSE長岡京というサイトで紹介している。インスタグラムも登録者数が

委): 委員、コ): コーディネーター、ナ): ナビゲーター、市): 説明担当者

増えている。長岡京市外の人で長岡京市に関心を持っている人が増えている実感がある。

コ) 長岡京市では LINE で防犯灯の故障などを連絡できる。市から情報を発信するだけでなく、市民から行政に情報を伝えられる。

委) 長岡京市の LINE をコロナウイルスのワクチン接種をきっかけに登録した。Instagram も登録した。情報発信は動画など視覚で訴えていくのがいい。クラウドファンディングで資金集めされている団体が、よく動画を活用して PR している。

コ) 情報発信の方法も大事だが、どうやって人の繋がりを作っていくのがキーワードになると思っている。繋がりの中にいない人にどのようにアプローチをかけていくのか。行政の情報やまちの魅力、活動に関わってもらえるような情報発信のアイデアはあるか。

委) SNS で発信しても興味がないと見ないと思う。SNS は自分が見ている関連ワードや関連動画が表示される。若者に興味を持ってもらうことが第一。

コ) SNS はたくさんの情報が発信されているので、行政からの発信が届かずに埋もれてしまう可能性がある。

PT) 情報を誰が発信するのが重要だと考えている。行政は紙媒体の広報紙だけでなく、SNS 等を活用しているが、たくさんの情報があるので、情報の取捨選択が受け手に委ねられている。行政の情報は素通りされてしまうので、市民から市民への情報発信の方が、受け手はキャッチしやすいのではないかな。発信するのが誰なのかも重要。

委) 各地域に市役所の掲示板がある。皆さんはどうかかわからないが、掲示板を情報源として結構見ている。

コ) 行政だけの情報発信を変えても、情報が届かないのではないかなという問題意識が、行政にあるのだと思う。行政だけの課題なのか、受け手が変わっていく必要はないのか。市民同士が繋がれるような情報発信に足りていないものはなにか。

PT) 温暖化対策などを情報発信する立場だが、実感が足りないと思う。今すぐ変わるものではなく、長期のスパンで考えないといけない問題なので実感が伴わず、一人一人の行動変容に結びつかない。身近な人からの情報発信が実感に繋がるのではないかなと考えている。

コ) 自治会についても、お試しで参加できれば実感を持てるのではないかなと感じた。

委) 先日、総合型スポーツクラブの地域支部を作らないかという話になった。その支部が中心になって、スポーツや文化を通して子どもと大人を繋げる。大阪北部地震が起こったときに、下校時に生徒はすごく不安になっていたもので、地域から迎えがあれば心強いと校長先生がおっしゃっていた。また、祭りができないので、感染対策をしながら地域づくりを絡めて何かできないかなと考えている。今のコミュニティニュースはやったことの報告しか発信ができていないので、新しい人をどれだけ巻き込めるかが一番の課題だと思っている。

コ) 多世代交流やまちづくりの実感が得られるような機会をどのように作っていけばよい

か。

- 委) お祭りは多世代が関わる行事。年配の方から神事の祭壇の作り方を教えてもらい、大人でお祭りをして、子どもの神輿もある。
- コ) 祭りは誰が主体となって行っていくのがいいのか。
- 委) 地区によっても違うと思うが、馬場地区は向日神社の氏子であるため、地域コミュニティ協議会ではなく自治会主体で運営している。
- コ) 多世代の交流と共に、地域間交流も活性化させた方がいいのではないかな。防災・子育てにも繋がる。
- 委) 民生委員の視点で言うと、地域間交流はやっていった方がいい。良いところを真似できる。コロナ感染防止の観点からインターネットを活用して地域間交流を行いたい。行政は市民の活動にあまり立ち入ってほしくないと考えている。市民が伸び伸びと活動できるように、行政には縁の下で力持ちになってもらう。IT 関係を強みにしている人材を生かしたい。
- 委) 防災訓練に小学生を参加させて、中学生に運営をしてもらおうと考えていたが、コロナのため中止となった。代わりに防災学習を授業の中で行った。地域コミュニティ協議会で、避難所運営について会議をするのはほとんどが男性であるため、女性目線の取り組みができるように女性に参加してもらいたい。
- コ) 有事の際にも、地域を活性化させるためにも、人と人との繋がりはあったほうがいいが、自治会がうまく機能しなくなっている状況で、地域コミュニティ協議会がそれぞれの繋がりを作ろうとしている。実際に進めていくにあたって、地域コミュニティ協議会に負担がかかると自治会と同じ課題を抱えることになる。担い手に男性が多いというのも課題。
- 委) 人をどう発掘するかに懸かっていると思う。繋がりを広げ、深めないといけないという思いは自治会、地域コミュニティ協議会ともに持っている。興味関心が多様化しているので、多様な情報発信が求められる。フランクに仲間集めができれば面白いのでは。
- 委) 資金の出どころによってはトラブルに発展することもある。地域コミュニティ協議会は市からの補助で成り立っている。
- コ) 人材が発掘できない理由はなにか。
- 委) 地域の団体の長を集めるという組織化のしかた。青推協の事業を踏襲しているのが現状。コロナ禍でその事業ができていないが、軌道修正にはいい機会。子どもに関わる団体や環境の団体が入ってくれればと思っている。長を集めて下におろすというやり方では恐らく動かない。
- 委) 地域コミュニティ協議会の存在を今日知った。自治会のない地域や、自治会に入っていない人は存在に気づいていない人も多いのではないかな。水害の恐れがある八小校区に住んでいる。避難するには連携が必要。イベントなどについて発信されているのに見ていなかった。関心がない人には全く届いていないのだと思う。どんな形でもいい

のでコミュニティにまず参加することが、人材発掘に繋がるのではないかな。

コ) 若い人が参加するためにはどうしたらいいかな。

委) 若者が魅力的に感じるものを使って発信するなど。

委) 地域によって課題や目的が違うと思うので、そこを明確にしたうえで、目的に特化した企業に声をかける、地域の高校の課外活動の一環として巻き込むなど。

委) 共同体は幻想である。あまり突き詰めない方がいい。幻想を強めないといけない。

自分ごと化会議 前半戦を終えて

委) いろんな方の意見を聞いて、様々なことを知ることができた。

委) 西山の問題は知らなかった。長岡京市に住んでよかったと思うのはおいしい水があるということ。西山の環境について再認識し、活動に協力していければと思う。長岡京市全体で情報共有できるような街になればいい。情報をプッシュ型で行っていくのがいい。

委) いろんなことを知ることができた。長岡京市を良くするには人と人との繋がりが欠かせない。自然と目に触れるような情報発信がされ、みんなが共有できるまちになればと思う。

委) 他地域のことや、地域コミュニティ協議会の方の意見が聞けて勉強になった。自治会に入っているけど参加していない方や未組織地域で不便を感じていない方の意見が貴重だと思う。無作為抽出の方がだんだんと減って、地域の役職に就いている方が多くなってしまったので、無作為抽出の方が多く参加していれば、もう少し新しい話が出てきたのではないかなと思う。

PT) 市役所に入ったときから「市民協働のまちづくり」という難しい問いを自分なりに考えてきた。個人が尊重され、経済が豊かになり、行政サービスが強化されることを、個人も地域も行政も望み、そして実現してきた。一方でコミュニティが希薄化した。でもそれは嫌だと個人も地域も行政も思っている。防犯・防災・生活環境美化のためにはコミュニティが必要。この逆説的な問いに答えはあるのか。明確な答えを持っている人はいないと思うが、せめてこの悩みを市民も地域も行政も一緒に共有できれば。そのための自治振興条例になれば有意義だと思う。

委) 10年前に大阪から引っ越してきた。先日コミュニティで小学校の運動場の草取りと側溝の泥上げをした。そういう地域を大事にしたい。

委) 農業をやっているので、環境問題、西山の自然に興味を持っている。温暖化を抑制するために、緑を増やすことが大事。

委) 貴重なご意見をいただいた。地域で頑張っていきたい。

委) 長岡京市に 30 年近く住んでいるが、自治会や地域コミュニティ協議会の課題は知らなかった。西山のこともこの会議で知った。自分なりに何ができるか考えながら生活していきたい。

PT) 参加者の皆さんがすぐくまちのことを思っておられると感じた。長岡京市は来年市制 50 周年。市民アンケートでも長岡京市の魅力を感じている人は多い。地域で活動されている皆さんのおかげ。これからの世代に引き継いでいけるように考えていきたい。情報発信においても、どうしたら伝わるのかを模索しているところ。いただいた意見を庁内で共有し、引き続き取り組んでいきたい。

コ) 本日いただいた意見を踏まえて提案書を修正し、条例検討委員会に提出する。自治会や地域コミュニティ協議会は重要な機能を担っているが、どのようにしたらうまく回せるのか、といったところについても、条例検討委員会で議論していきたい。皆さんのお話を聞いていて、長岡京市が好きなのだと感じた。条例検討委員会での議論を踏まえ、4 月以降にまた議論を行っていく。